

就任のご挨拶

この度、理事の改選と共に選挙により新しく会長に選出されましたのでご挨拶させていただきます。海の森づくり推進協会は1990年代から行われた海中林造成研究の成果をもとに、2000年、「コンブで海中林を作ろうの会」を経ながら、2002年に特定非営利活動法人「海の森づくり推進協会」として設立されました。以来26年有余の長き歴史の中で多く会員の方に支えられてきました。そして、今日、NPO法人としての活動制限にとらわれず、幅広く協会の目的達成するために、任意団体に改組して活動を行っています。

地球温暖化時代、国内外における、社会・経済・環境は、設立当時の海を取り巻くそれと状況も大きく変わってきました。

協会の活動目的は定款にもありますように、沿岸水域の環境保全と水産資源の増養殖を図りながら海藻等の利活用の研究及び普及を通じ、人為的にバランスを失った沿岸環境を修復・改善し、社会に貢献することをうたっています。この目的を達成するために、漁協はじめ全国の希望者にコンブやワカメ等の種糸幹旋事業(昨年 2,400m)、毎年のシンポジウムの開催、その他会員サービスとしてニュースレターの発行並びにホームページを通じての情報交流等の活動を行ってきました。「継続は力なり」と申しますが、私は、これ等先人の活動を継続しつつも、私なりの視点で運営に当たりたいと思います。



今回新たに選出された理事の方々は幅広い分野でそれぞれ専門に関わっている素晴らしい方々であります。新しい会員勧誘や全国的に広がっている会員の拠点づくりやSDGの視点からも、海藻の海域・陸域育成技術はもとより、日本の食文化でもある海藻の流通・製品加工、また高齢化・健康医療の面で海藻が有する新しい可能性の追求、規制緩和・改革課題などの分野について検討し、理事の皆様の専門が会員並びに会の発展と社会貢献につながるような運営に努めたいと思います。

シンポジウムは協会の大きな柱の一つで開催の準備をしてきましたがコロナ禍のため残念ながら本年度は中止いたします。引き続きコンブ等海藻を主体とした国際交流特にロシアとの交流について

一層の検討してまいりたいと思います。

地球環境時代、海の森づくりと各SDG目標とのコラボレーションを念頭に、広大な経済水域について権利のみならず果たすべき義務を明確にし、「海の森づくり」を皆様と共に推進させて行っていきたいと存じます。今後ともよろしくご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

堀田 健治

日本大学名誉教授 工学博士